



発行所
〒924-8544
石川県白山市三浦町500の1
石川県立翠星高等学校内
六星同窓会
印刷所
印刷
能登

「幸せの原点」



六星同窓会会長

杉山 栄太郎

人間だれしもこの世に生を享け
たら、心身ともに健康が第一です。

本年の医療統計をみると、医療
費が約三十三兆円近くになります。

少子高齢化の中にあつて、大変な時代です。経済的な問題だけでなく、今人生で不幸せな人というと、家族の中で寝たきりの方がおられると、それを介護する人たちは大変な苦難の道であり、身の内の人と言えど、長い歳月が経つと心労が甚だしいものがあると思います。これを現在の医療は病気になつてから治療中心であり、予防医学が遅れている様な気がします。寝たきりにならない事が医療費もかからず、本人はもとより家族も病気になることが幸せにつながります。

健康であるためには、バランスある食事を節度をもつて食べるとなり初めて県外へ出張した折り、他県の先輩教員から松任農業高校を知っているかと尋ねられたことです。これらはともに今から三十年以上前のことで、本校の「歴史と伝統のすごさ」を物語るエピソードです。

時代を生き抜く力には、何が最も必要なのか考えて見たことがあります。間違っているかも知れませんが、私は「柔軟性」が最も大事だと考えています。柔軟性とは、柔らかくしなやかに対応できる性格を持ち合わせている様をいいます。先人の校長先生をはじめ多くの教職員の方々が本校にあつて、状況の変化、時代の変化、取り巻く環境の変化に効果的に柔軟に対応してきたからこそ、今日の本校が百三十四年と言う時を超え存在しているのだと思います。

「次の世代へバトンを」



学校長

藤田 宣彦

六星同窓会の皆様方には、日頃より本校の教育活動に対し、ご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

の母校であり、また、父が長く勤めていた学校でもあります。私には本校の歴史と伝統のすごさを知った、二つの思いがあります。

今年二年ぶりに校長として本校に戻り、伝統ある本校の舵取りに重い責任を感じております。本校は私にとって縁が深く、祖父や父

一つは大学時代、農業教育法で担当教授から、札幌農学校に次いで松任農学校の話聞いたこと。また、もう一つは石川県の教員に

私は赴任した四月当初から、これまで余り読むこともなかった「松任農業高等学校百年誌」や「六星土に人に、松任農学校の一世記」を時間の合間に読んでいます。私は教員になって今年で三十五年目を迎えています。従って、それらを読むことによって、ちょうど私の知らない本校の百年の歴史を

知ることができそうです。札幌農学校や駒場農学校と比較して改めて本校を考えた場合、本校のすごさは何なのか。誕生当初から本校は、その時代時代に対応して場所や学科や制度、その教育内容等を次々に変えながら今日まで、地方の農業高校として地域を支える有為な人材を輩出しながら生き抜いて来ました。脈々と地方の農業高校として今も生き抜いていること、これが本校の「すごさ」ではないでしょうか。これからは本校が生き抜いていくことに、私自身も精一杯関わっていききたいと思っております。

今、時代の変化は激しく、農業を取り巻く環境も「一次産業の農業から六次産業化としての新しい総合産業」へと、また、農業後継者も「世襲から選択の時代」へと大きく変わろうとしています。今正に我々教職員は、先人たちと同じく柔軟性を持ち、新しい農業高校や農業教育の在り方について、新たな方向性を打ち出す時期に来ていると思っております。次は創立百五十周年との思いで、次の世代へバトンを渡したいものです。終わりに、同窓会の皆様方のご健勝とご活躍を祈念するとともに、今後とも本校への一層のご理解とご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

力強く、粘り強く

野球部監督 元雄 功

翠星野球部を指導して丸三年になろうとしています。向孝史教諭と共に「部活動にどのように生徒組むべきか」を毎日のように生徒達に語り、叱咤激励しながら指導しています。指導一年目の晩秋には、部員が野球の『九人』に達しない状況で薄暗い照明の下で基本練習をしていました。さすがに自分の心に負けそうにもなりませんが、「人生、山あり谷あり」信じて前を向いて歩んでいけば……という思いで周辺の中学校を廻らせて頂きました。その甲斐もあってか、翌春には一三名の新入部員を迎え、元気な声がグラウンドに響き合い、活気を取り戻すことができ、次の年も一〇名入部、女子マネージャーも含め計二名となりました。



春には関西遠征、夏には関東遠征と積極的に遠征合宿を行い、部員達に出来る限り刺激を与え、自分達に足りないものは何か、僕達もあんなことができるようになるという思いを募らせ、常に目的意識を高く持って部活動をすることを目指しています。また、藤田宣彦校長先生の呼びかけで始まった農業高校交流戦では、甲子園出場経験のある久居農林、岐阜農林や福井農林とも毎年八月上旬に對抗戦を行い、互いに切磋琢磨できる機会もあり、部員達も着実に力をつけています。昨秋の県大会、小松明峰戦では延長一〇回サヨナラ勝ちし、次の津幡戦では、一五安打しながら惜敗したものの、粘り強さと力強さを垣間見ることもできました。

諦めずに指導していきたいと思っ
ています。能力はさほど無くても
地道に反復練習していけば、出来
なかったことが出来るようになる
のです。「どうせ俺達なんか……
」と思っている限り夢は実現しない
。今に見ておれ」の気持ちでやっ
てみる！」と練習後のミーティン
グでよく話をしています。
野球部OBの方々の暖かい御支
援もありまして、三〇代前半の学
年（松任農時代）の方から夏の大会
前にボールの寄贈や飲料水の差
し入れ、また、球場へ応援にかけ
つけて下さるなど、本当に感謝の
気持ちでいっぱいです。
夏の大会では、ここ三〇年間は
厳しい結果となっており、ベスト
8に入ったのが昭和三十七年を最
後に遠ざかっています。どんなに
実力のあるチームも対戦相手によ
って一回戦で破れることも多々あ
るのが高校野球の難しいところで
はありますが、スタンドからの熱
い全校応援を背に、古豪復活を目
指します。

先輩から学ぶこと

進路指導主事 宮下 正司

年が押し迫る十二月二十八日、
2年前に本校を卒業した大学生を
招き、「先輩から学ぶ」を開催し
ました。大学・短大へ進学希望し
ている一・二年生の生徒、四十四
名が参加しました。この企画は毎
年実施されており、身近な先輩か
ら大学での様子や本校在学中にど
のように進路を決定し、それに向
けて取り組んだかを直接聞くこと
ができます。生徒にとっては、進
路選択の一助となり、進学意欲の
向上にもつながっています。本校
の進学者の割合は、ここ数年、4
割程度で推移しています。
後輩たちのために年末の忙しい
中、駆けつけてくれた卒業生は、
四十万佑佑君（東京農業大学造園
科学科2年）、鉄車元志君（同）、
出口奈穂子さん（東京農業大学食
品科学科2年）、河村千春さん（金
城大学美術学科2年）、菅本彩加
さん（金城大学幼児教育学科2年）
の5名です。いずれも本校在学中
は、勉強はもちろんのこと、部・
研究会活動や農業クラブ活動、生
徒会活動に一生懸命取り組んで
いた先輩です。生徒たちは、教職員
から話を聞く以上に真剣なまなざ
しで聴いていました。
ここで先輩が後輩に残してくれ
た温かいメッセージの一部を紹介
いたします。
「皆さんは、大学合格を目指し
て日々頑張っていると思います。
勉強は大変ですが、毎日少しずつ
でもコツコツと積み重ねていけば、
きっと目標とする大学に合格でき
ると思います。自分の目標に向か
って一生懸命頑張ってください
。」四十万君
「私がこの大学へ入学できたの
は、農業クラブ活動に真剣に取り
組んだからだと思います。三年時
には、農く会長となり、人前で接
拶する機会が度々ありました。最
初は苦手でしたが、少しずつ慣れ
ていきました。人前で挨拶するの
は緊張しますが、度胸もつき、面
接試験でも落ち着いて取り組むこ
とができました。」鉄車君
「努力が何より大切です。他人
と比べてへこむことはありません。
色々なことにチャレンジしてくだ
さい。たとえ失敗してもそれも一
つの経験となります。私自身も自
分で選んだ道を「正解」とするた
めに日々奮闘中です。みなさんも
がんばって。」河村さん
最後になりますが、同窓会や保
護者の皆さんにお願いがございま
す。ご承知のとおり、就職につい
ては非常に厳しい状況が続いてお
ります。県内唯一の農業高校とし
て、生徒たちは専門分野の学習に
励んでおります。しかし、学んだ
ことが必ずしも就職に結びつい
ていない状況もございます。教職員
は、生徒の就職希望動向に基づき、
これから採用のお願いに皆さまの
会社へお伺いすることもあろうか
と思っております。ぜひ、その節は、よ
ろしくお願いいたします。皆さま
には、より一層のご協力とご支援
をよろしくお願いいたします。



「森林・林業再生プラン」について

石川県森林組合連合会会長
かが森林組合組合長

有川 光造

昭和33年卒

六星同窓会の皆様、こんにちは。私は、昨年11月旭日小綬章を受章したのですが、その際、同窓会よりお祝いを頂き有難うございました。

受章の主旨は、森林林業に対する功績を認めるとのことでした。

私は、中学校は小松市粟津温泉近くの南部中学校卒で、小松周辺にいくつも高校があるのを飛び越えて、一人だけ松農農林工学科へ入学し、林業の勉強をしました。林家の長男であったので、自ずと方針が定まっております、その通り歩んできた結果です。

当時の農林工学科は、男性のみの40名で、元気滌らつ、自由奔放で、先生方もさぞ大変だったと思います。

近年、林科のみの級友でクラス会や、仙台と北海道旅行、次は九州旅行を計画中です。

さて、現今の農林業は問題山積ですが、昭和38年農科卒の安田舜一郎さんは、県農協中央会長や全国共済農協連会長として、東奔西走です。私とは県の会議や飛行機でお会いしますが、同じ松農の同窓生として気楽に相談し、連携して頑張っております。

次に、森林法が約30年振りに大

改正されます。それに少しかかわったので報告します。

その背景は、①森林資源が利用期に達しつつあるにもかかわらず、林業生産性が低く国産材が安定的に供給されないこと、②材価の低迷等により森林所有者の関心が低下し森林の適正な管理にも支障を来たしていること、③一方、化石燃料の代替や炭素の固定といった側面から地球温暖化防止や低炭素社会づくりを進める上での木の良さが見直され、国産材利用への期待が高まっていることなどです。

この様な状況を踏まえ、政府は一昨年12月に『森林・林業再生プラン』を作成することになり、10年後の木材自給率50%以上という目指に向けた検討をするため、「森林・林業基本政策検討委員会」が設けられました。

同委員会の構成は外部委員14名からなり、その顔ぶれは大学教授や研究者で約半数を占め、残りは県の林務担当部長や町長等の地方公共団体の代表、全国有数の民間林業会社や製材加工会社の代表、大規模林家等、それに森林組合の代表で私が指名されたのであります。

会議は昨年2月から始まり11月

の最終会まで延べ9回の会議と2回の小委員会が農林省特別会議室で開催されました。副大臣、政務官、林野庁長官、次長、各部長、関係課長さん方が出席されるとともに、記者、速記録係や多くの傍聴の方々で会議室が埋め尽くされ私としては毎日が緊張の連続でありました。

会議で尽くされた議論の成果は、さる11月末に「森林・林業の再生に向けた改革の姿」として最終とりまとめが行われました。

私は終始、組合員さんのご苦勞や現在の木材価格では全く報われていないことを念頭に会議に臨み発言もしてきました。

23年度からは林業政策の大きな転換期になります。新しい方向にうまく対応できるよう、しっかりと取り組まねばと思っております。

同窓で関係ある方々のご協力をお願いいたします。



懐かしの母校訪問

昭和五十年卒 農業土木科
稲本 勝彦

昨年の十一月十八日に六星同窓会金沢支部の活動として、大蔵支部長以下十八名が母校訪問をしました。参加者は、昭和十八年卒から五十年卒の男女で、今も元気で活躍されており、毎年支部同窓会には出てきて下さる顔なじみです。

学校の正面玄関に入ろうとすると、生徒さんから元気な声で「こんにちは」と挨拶を受けました。感心な子やと思いつつ中に入ると、すれちがう生徒さんが皆挨拶する。立派な教育がされているなあと感じました。

私は昭和五十年農業土木科卒で、青春時代をこの母校で先生方から教えを受け、勉強やスポーツに励みながら多くの友人と共に楽しんで懐かしい大切な場所である。母校っていいなあ、いつ来ても、何度来てもそう思う。毎年支部の同窓会に出席し、私の父母の様な年代の大先輩の方々と会話するたびに、母校松農の卒業生で良かったなあと誇りに思う。

学校の施設を説明して頂きながら見学した。特に嬉しかったのは、農業クラブFJの活動で、全国大会や県大会で素晴らしい成績を毎年納めていることでした。全国大会最優秀賞は容易ではない、日頃の学習・研究・向上心がなければ到達できないものだと思う。私も

も県大会トランジット測量の部に仲間四人で出場し、ちょっととしたミスで負けたことがある。何度も何度も練習してきたのに、あの時の悔しさは今も忘れない。そんな後輩達の頑張りの姿にとても勇気付けられ元気をもらいました。今後とも奮励努力して、母校の名を全国に広めてほしいと思います。

楽しみにしていたピュアマートに行く、もう品物が少なくなっていたが、生徒さんが一生懸命にレジをしているので、野菜を買った。それがまた新鮮で量も多く安いのです。毎週末曜日の午後二時からの開店だそうで、時間があつたらまた寄りたいと思います。

最後にまた校長室に戻り、先生方と意見交換をした。その中で、今は就職難で大変だということを知られました。母校を卒業し会社を興した先輩方が、一人でも多く翠星高校の生徒さんを就職させてくれたらと思ひ、帰途についた。

この母校訪問の支部活動は何度か実施されているのですが、参加者の方々からとても良かった、また行きたいという評価をいただいているという。毎年母校を訪問し、生徒さんから元気をもらうことも良いのではないだろうか。次回も参加したい。



支部だより

関東支部総会

関東支部

昭和二十七年卒業

商業科 村松 邦祐

六星同窓会関東支部は松任農学校卒業のメンバーにより上田八良氏が平成九年に創立され初代支部長として十年勤め、平成十九年に村松が引継ぎ、平成二十二年十一月二十八日(土)に日本教育会館にて第十四回総会を藤田宜彦校長のご出席を頂き開催、事業報告①新春早々の寄席で大笑いすると共に気軽に一杯の会、二月にも一杯の会を開催した。②歩く会も春秋の二回開催、参加者から好評を得た。その他の議事も原案どおり可決。次に永年事務局長を勤めて下さいました奥 秀夫氏から東 建路氏へとバトンタッチされた。

また、同氏はいしかわ観光特使にも委嘱された。

総会後の懇親会も学生時代の思い出や、ふる里の話で盛り上った。



関西支部

胸襟を開いて

昭和二十四年度卒業

農林科 宮岸 岩夫

六星同窓会の会員の皆様方には益々ご健にて活躍のこととお喜び申し上げます。平素は、関西支部の運営に本部を始め会員皆様の暖かいご指導、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

創設以来四十五周年が過ぎ会員の高齢化と健康を害している方が多く見受けられる一方近年関西地区に就職する卒業生が皆無の状態では会員の減少が顕著に表れてきている。やがては、支部の存続も危惧されます。私達は、創設の目的である会員相互の親睦を再認識し伝統ある偉大な歴史を背景に支部発展のために寄与することを通じ母校の発展に尽くすことがその責の一端でないかと存じます。

故郷を同じくする者、ましてや同窓の者ともなれば懐かしいものです。一面識も無くとも同窓生とわかれば百年の知己です。互いに胸襟を開いて語り合えます。

そこに故郷の思い出あり、学校の思い出、世俗を超えた純真なる交友が生まれます。

そうして互いに利害得失を忘れて助け合うことが本場の同窓会の目的でないでしょうか。

この意味から総会の出席だけでなく名簿など大いに活用され、後

輩は先輩を訪ね、先輩は後輩の近況を尋ねて励ますなど常に会員の皆様が大いに支部を利用して頂きたいと思います。

それが取りも直さず支部の発展につながり、また目的に合することと思えます。



東海支部

昭和三十六年度卒業

農業土木科 山本 満男

平成二十二年度は変動の多い一年となり、天候の変更に伴い低温多雨、日照不足に泣かされ野菜等高くなり、また岐阜県の一部に多大な被害となり、夏には、記録的な「暑」に包まれ、全国的の気温のトップは、東海地方が多い一年となり、又名古屋では、地方政治の考え方の違いにて「リコール」問題となり、今年の統一選挙に伴い大きな問題となつていきます。

私達六星

同窓会東海支部も平成十四年五月に先輩方のご努力に創



立され今年で十年目の節目を迎え、私達世話役一同は内容等を相談し今年の五月二十八日(土)「ホテルサンルートプラザ名古屋」で開催させて頂きたいと思ひ、多数の参加を期待し世話役一同頑張りたいたいと思ひます。

金沢支部総会

平成22年7月3日(土)金沢都ホテルにて会が盛大に行われました。会場では、本校特産の味噌、クッキー、イチゴジャム、梅ジャム等が販売されました。

総会は、高木伸也事務局長の司会の元、大蔵捷直支部長、藤田宜彦校長挨拶の後、総会が無事執行されました。その後、金沢市食肉

事務局だより

〔本部〕

〔会計監査〕

6月2日(水)本校

〔理事会・総会〕

6月5日(土)グランドホテル松任

〔支部総会〕

〔東海支部総会〕 愛知県

5月22日(土)ホテルサンルートプラザ名古屋

藤田校長、田端教諭、大蔵捷直金

沢支部長、石田正昭白山市議会議

員出席

〔金沢支部総会〕

7月3日(土)金沢都ホテル

衛生検査所・所長吉村清人氏(昭和46年卒)による「畜産業を脅かす家畜伝染性疾病―口蹄疫とBSE」と題する講演がありました。



藤田校長、田端教諭出席

〔関西支部総会〕 大阪府

10月20日(水)料亭 和楽

藤田校長出席

〔関東支部総会〕 東京都

11月27日(土)日本教育会館

藤田校長出席

お祝い

叙勲旭日小綾章 有川 光造氏

副知事 中西 吉明氏

訃報

故 角 光雄氏(顧問)

故 橋本 龍太氏(顧問)